

サイボウズ® ガルーン[®]2

Version 2.0.0

インストールマニュアル

第1版

サイボウズ株式会社

はじめに

本書では「サイボウズ (R) ガルーン (R) バージョン 2.0.0」のインストールおよびインストール後の初期設定について説明しています。




本書の内容をよくお読みいただいた上で、実際の作業を行ってください。

■対象読者

本書は「サイボウズ (R) ガルーン (R) バージョン 2.0.0」のインストール作業を担当される方を対象として書かれています。

■本書で使用している記号（表記）

本書では、以下のような表記をしています。

表 記	意 味
 重要	特に重要な注意事項を記述しています。
 注意	操作に注意すべき事項、制限事項などを記述しています。
 補足	操作の補足説明や別の操作方法、知っているとな利な事柄などを記述しています。
※	用語の説明や操作を補足する説明が後述されていることを表します。

■マニュアル作成環境

本書の説明は、特に記述がない限り、以下の環境を使用して記述しています。

OS	Windows Server 2003 Standard Edition
Web ブラウザー	Internet Explorer 6
製品バージョン	サイボウズ (R) ガルーン (R) バージョン 2.0.0

※ 本書で掲載している画面表示は、お使いの Web ブラウザーによって異なります。

■製品名称と略称

本文中、「サイボウズ (R) ガルーン (R) バージョン 2.0.0」は、以下のように表記します。

サイボウズ (R) ガルーン (R) バージョン 2.0.0	ガルーン 2
--------------------------------	--------

■商標について

- ・ サイボウズ、Cybozu、ガルーン、Garoon、およびサイボウズのロゴマークはサイボウズ株式会社の登録商標です。
- ・ 記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。
Copyright (C) 2005 Cybozu, Inc. All rights reserved.

目次

第 1 章	インストール概要	5
1.1	動作環境.....	6
1.2	インストーラーの名称.....	7
1.3	ファイル構成.....	8
1.4	導入の流れ.....	10
1.5	準備しておく情報について.....	11
第 2 章	Windows 環境へのインストール	13
2.1	インストールする前の確認.....	14
2.2	Windows 環境へインストールする.....	15
第 3 章	UNIX 環境へのインストール	21
3.1	インストールする前の確認.....	22
3.2	UNIX 環境へインストールする.....	23
第 4 章	インストール後の初期設定	27
4.1	「ガルーン 2」を初期化する.....	28
4.2	お客様情報を登録する.....	30
4.3	システム管理者を登録する.....	32
第 5 章	アンインストール	37
5.1	Windows 環境でのアンインストール.....	38
5.2	UNIX 環境でのアンインストール.....	41
第 6 章	付録：複数サーバーでの運用	43
6.1	「ガルーン 2」システムの構成.....	44
6.2	単体構成でインストールする.....	45
6.3	データベース分離構成でインストールする.....	46
6.4	Web サーバー多重構成でインストールする.....	51
	索引	55

インストール概要

1

「ガルーン 2」をインストールする前の確認事項や準備について説明します。インストールする前に必ずこの章をお読みください。

1.1	動作環境	6
1.2	インストーラーの名称	7
1.3	ファイル構成	8
1.4	導入の流れ	10
1.5	準備しておく情報について	11

1.1 動作環境

1.1

動作確認済み環境

「ガルーン 2」の動作環境は以下のとおりです。

● 対応 OS

ハードウェア	OS
Intel Pentium 4 2.8GHz以上 メモリー：1GB以上	Windows Server 2003 Standard Edition
	Windows Server 2003 Enterprise Edition
	Windows Server 2003 Enterprise Edition (64bit)
	Windows 2000 Server (SP2 以上)
	Windows 2000 Advanced Server (SP2 以上)
	Red Hat Enterprise Linux AS (Version 2.1/3.0/4.0)
	Red Hat Enterprise Linux ES (Version 2.1/3.0/4.0)
	SUSE LINUX Enterprise Server 9
MIRACLE LINUX V3.0	
Ultra SPARC III 1.34GHz以上 メモリー：1GB以上	Solaris 8/9

● 対応 Web サーバー

OS	Webサーバー
Windows	Apache 1.3.x/Apache 2.0.x
	IIS 5.0/6.0
UNIX	Apache 1.3.x/Apache 2.0.x

● 対応 Web ブラウザー

OS	Web ブラウザー
Windows	Internet Explorer 5.5/6.x
	Firefox 1.x
	Netscape 7.x (7.0を除く)
Macintosh (Mac OS 9 以上)	Safari 1.x
	Firefox 1.x
	Netscape 7.x (7.0を除く)

補足

- 画面の表示は、Web ブラウザーの仕様によって異なります。

1.2 インストーラーの名称


インストールするサーバーの OS によってインストーラーが異なります。


OS	インストーラーの名称
Windows 版	grn-2.0.0-windows.exe
Linux版	grn-2.0.0-linux.bin
Solaris 版	grn-2.0.0-solaris.bin

1.3 ファイル構成

1.3

「ガルーン 2」のファイル構成を記載します。インストールされるファイルは、基本的に「本体」「Cybozu データベースエンジン」「画像ファイル」の3つに分類されます。

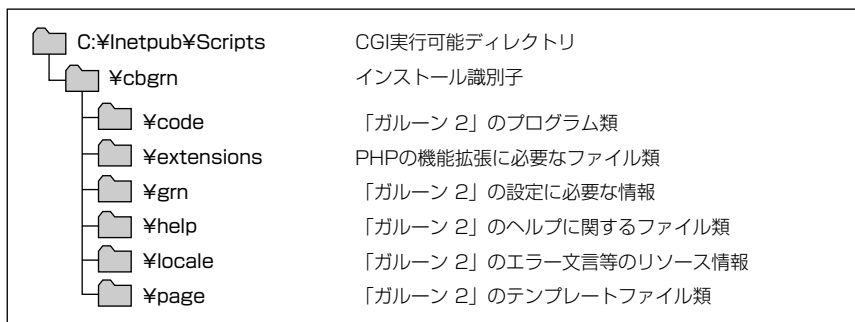
 ……ディレクトリ

 ……ファイル

■ Windows 版

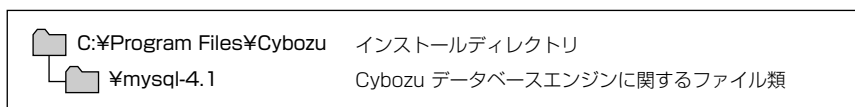
● 本体

「ガルーン 2」の本体関連のファイルは、インストール時に指定した CGI 実行可能ディレクトリ（例：C:\inetpub\scripts）に、インストール識別子のディレクトリを作成してインストールされます。



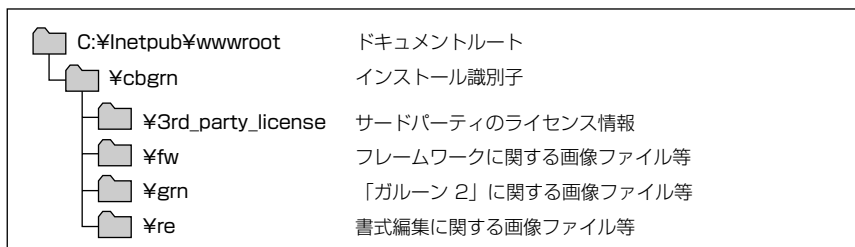
● Cybozu データベースエンジン

データベースエンジン関連ファイルは、インストール時に指定したインストールディレクトリ（例：C:\Program Files\Cybozu）にインストールされます。



● 画像ファイル

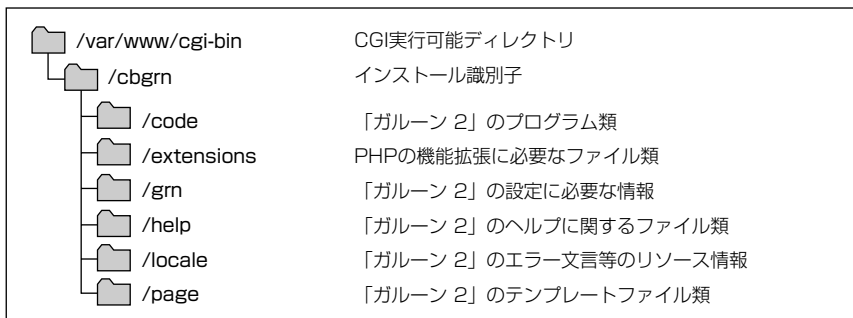
画像ファイルは、インストール時に指定したドキュメントルート（例：C:\inetpub\wwwroot）に、インストール識別子のディレクトリを作成してインストールされます。



■ Linux / Solaris 版

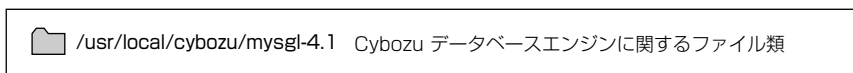
● 本体

「ガルーン 2」の本体関連のファイルは、インストール時に指定した CGI 実行可能ディレクトリ（例：/var/www/cgi-bin）に、インストール識別子のディレクトリを作成してインストールされます。



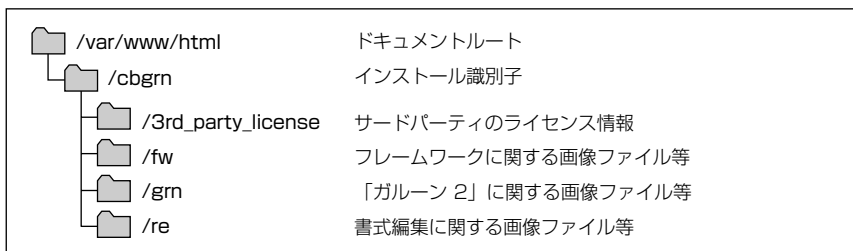
● Cybozu データベースエンジン

データベースエンジン関連ファイルは、インストール時に指定したインストールディレクトリ（例：/usr/local/cybozu）にインストールされます。



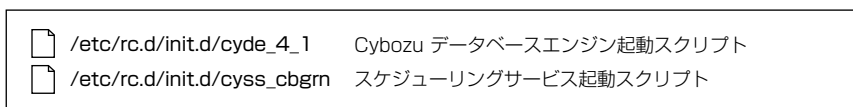
● 画像ファイル

画像ファイルは、インストール時に指定したドキュメントルート（例：/var/www/html）に、インストール識別子のディレクトリを作成してインストールされます。



● 起動スクリプトファイル

起動スクリプトファイルは、起動スクリプトディレクトリ（例：/etc/rc.d/init.d）にインストールされます。



1.4 導入の流れ

1.4

「ガルーン 2」を導入する前に、様々な情報を準備しておく必要があります。以下の流れにしたがって作業してください。

各種設定情報を準備する

あらかじめ各種設定情報を準備しておきます。
「準備しておく情報について」→ P.11



インストールする

「ガルーン 2」をインストールします。
・ Windows 環境：「第 2 章 Windows 環境へのインストール」→ P.13
・ UNIX 環境：「第 3 章 UNIX 環境へのインストール」→ P.21



初期設定する

Administrator（スーパーユーザー）のパスワードを設定し、「ガルーン 2」を初期化します。
その後、システム管理者とお客様情報を登録します。
「第 4 章 インストール後の初期設定」→ P.27

補足

- サーバーの負荷を軽減するため、「ガルーン 2」を複数のサーバーで運用できます。詳しくは、「複数のサーバーでの運用」（P.43）を参照してください。

1.5 準備しておく情報について

導入を始める前に、以下の情報を収集する必要があります。

必要な情報	備 考
Administrator (スーパーユーザー) のパスワード	「ガルーン 2」を初期化するときに必要な Administrator (スーパーユーザー) のパスワードです。
「ガルーン 2」のシステム管理者 情報	「ガルーン 2」の基本システムを管理するシステム管理者の情報です。システム管理者の「名前」「ログイン名」「パスワード」などの情報をご用意ください。
お客様情報	「ガルーン 2」を導入するお客様の情報です。「法人名」「法人名 (よみ)」「ロゴ (URL)」または「ロゴ (ファイル)」の情報をご用意ください。
ドキュメントルート	Web サーバーで公開される HTML ドキュメントやイメージなどを格納するディレクトリの情報です。ドキュメントルート以下が Web で公開されます。ドキュメントルートは、Web サーバーの設定によって異なりますので、システム管理者にお問い合わせください。
CGI 実行可能ディレクトリ	Web サーバーで CGI が実行可能なディレクトリの情報です。通常、セキュリティの関係上、ドキュメントルートでは CGI が実行できません。CGI 実行可能ディレクトリは、Web サーバーの設定によって異なりますので、システム管理者にお問い合わせください。
インストール識別子	1 台のサーバーに複数の「ガルーン 2」をインストールする場合に指定する、個々の「ガルーン 2」を識別するための文字列です。使用できる文字は、「a-z、A-Z、_ (アンダーバー)」と、その後に「0-9」(数字)をつけた文字列になります。識別子の長さは、10 文字以内です。

Windows 環境へのインストール

2

「ガルーン 2」を Windows 環境にインストールする方法について説明します。UNIX 環境にインストールする場合は、「第 3 章 UNIX 環境へのインストール」(P.21)を参照してください。

2.1	インストールする前の確認	14
2.2	Windows 環境へインストールする.....	15

2.1 インストールする前の確認

ここでは、以下のように Web サーバーのディレクトリが配置されていることを前提として説明します (IIS6.0 を例とします)。違うディレクトリに配置されている場合は、ここで説明されているディレクトリを参考にして、適宜読み替えてください。

Web サーバーの CGI 実行可能ディレクトリ	C:\¥Inetpub¥scripts
Web サーバーのドキュメントルート	C:\¥Inetpub¥wwwroot

インストールを始める前に、以下の点を確認してください。

● **Web サーバーはインストールされていますか？**

あらかじめ対応 Web サーバーをインストールして、CGI が実行できるように設定してください。

「対応 Web サーバー」 → P.6

● **インストールに必要な権限はありますか？**

インストールは、「Administrator」権限を持つユーザーで行ってください。

 **補足**

- Windows Server 2003 Enterprise Edition に IIS (Internet Information Server) 6.0 をインストールする方法については、弊社ホームページで紹介しています。

「IIS 6.0 のインストール」 →

<http://cybozu.co.jp/products/tech/webinstall/IIS6install.html>

2.2 Windows 環境へインストールする

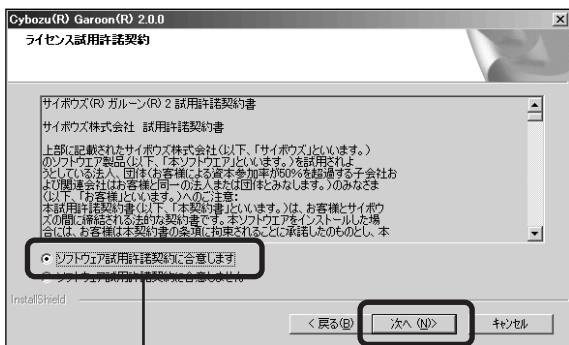
インストールする前に、必ず「インストールする前の確認」(P.14) を参照してください。

- 1 インストーラー「grn-2.0.0-windows.exe」を起動する
- 2 インストールを続行する場合は [次へ] をクリックする



クリック

- 3 製品の試用許諾契約を確認し、合意する場合は「ソフトウェア試用許諾契約に合意します」を選択し、[次へ] をクリックする

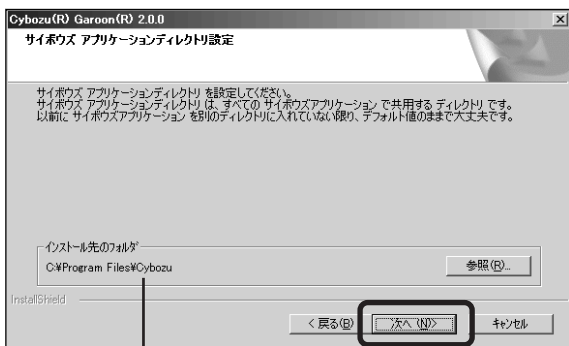


合意する場合、「ソフトウェア試用許諾契約書に合意します」にチェックを入れる

クリック

- ※ 試用許諾契約に合意しない場合、[キャンセル] をクリックしてください。インストーラーが終了します。
- ※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

4 「ガルーン 2」のインストールディレクトリを確認し、[次へ]をクリックする



インストールディレクトリを
確認する

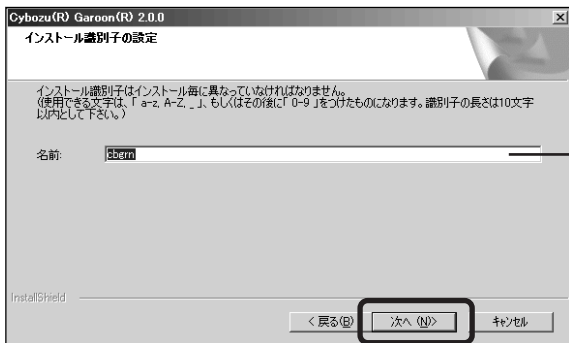
クリック

※ インストールディレクトリを変更する場合、[参照] をクリックしてディレクトリを指定してください。

※ インストールを中止する場合、[キャンセル] をクリックします。

※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

5 インストール識別子を確認し、[次へ]をクリックする



インストール識別子を確認する

クリック

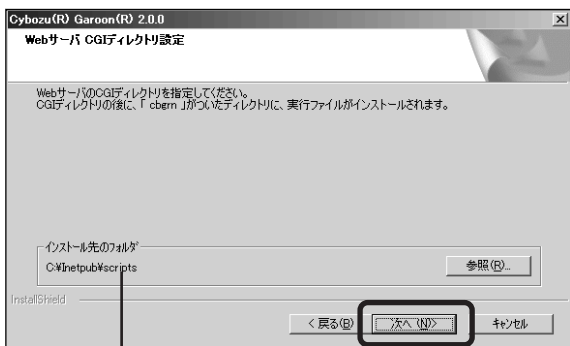
※ 既に「ガルーン 2」をインストールしている場合、以前と重複しない識別子を入力してください。

※ ここで入力したインストール識別子が [ガルーン 2] にアクセスする URL に使われます。

※ インストールを中止する場合、[キャンセル] をクリックします。

※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

6 Webサーバーの CGI 実行可能ディレクトリを確認し、[次へ] をクリックする



CGI 実行可能ディレクトリを
確認する

クリック

- ※ CGI 実行可能ディレクトリを変更する場合、[参照] をクリックしてディレクトリを指定してください。
- ※ インストールを中止する場合、[キャンセル] をクリックします。
- ※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

7 Webサーバーのドキュメントルートを確認し、[次へ] をクリックする



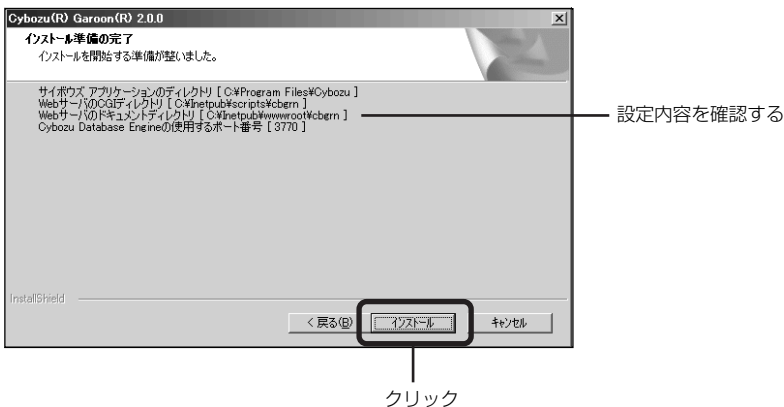
ドキュメントルートを
確認する

クリック

- ※ ドキュメントルートを変更する場合、[参照] をクリックしてディレクトリを指定してください。
- ※ インストールを中止する場合、[キャンセル] をクリックします。
- ※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

8 手順4～7で設定した内容と表示された内容に間違いがないかを確認し、[インストール] をクリックする

インストールが始まります。



※ インストールを中止する場合、[キャンセル] をクリックします。

※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

9 「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されたら、[完了] をクリックする



- 10** 「Cybozu(R) Garoon(R) 2.0.0 のトップページにジャンプします。」というダイアログが表示されるので、[OK] をクリックする
続いて、初期設定を行ってください。
「第4章 インストール後の初期設定」→ P.27



クリック

補足

- インストールできない旨のメッセージが表示された場合は、「インストールする前の確認」(P.14) の内容を確認してください。
- インストールした「ガルーン2」にアクセスしたとき、正常に画面が表示されない場合は、以下の設定内容を確認してください。
 - ・ CGI 実行可能ディレクトリに、CGI 実行権限が設定されていない
 - ・ ドキュメントルートのアクセス権が正しく設定されていない

UNIX 環境へのインストール

3

「Galoon 2」を UNIX 環境にインストールする方法について説明します。Windows 環境にインストールする場合は、「第 2 章 Windows 環境へのインストール」(P.13)を参照してください。

3.1	インストールする前の確認	22
3.2	UNIX 環境へインストールする	23

3.1 インストールする前の確認

ここでは、以下のように Web サーバーのディレクトリが配置されていることを前提として説明します (Red Hat Enterprise Linux AS の Apache を例とします)。違うディレクトリに配置されている場合は、ここで説明されているディレクトリを参考にして、適宜読み替えてください。

Web サーバーの CGI 実行可能ディレクトリ	/var/www/cgi-bin
Web サーバーのドキュメントルート	/var/www/html

インストールを始める前に、以下の点を確認してください。

- **Web サーバーはインストールされていますか？**

あらかじめ対応 Web サーバーをインストールして、CGI が実行できるように設定してください。

「対応 Web サーバー」 → P.6

- **インストールに必要な権限はありますか？**

インストールは、「root」ユーザーで行ってください。

■ SELinux について

Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 を標準でインストールすると、SELinux が有効になります。

SELinux が有効な状態では、「ガルーン 2」は正常に動作しません。

「ガルーン 2」を利用するには、SELinux を無効にしてください。

3.2 UNIX 環境へインストールする

インストールする前に、必ず「インストールする前の確認」(P.22) を参照してください。

1 インストーラー「grn-2.0.0-linux.bin」(Linux 版) または「grn-2.0.0-solaris.bin」(Solaris 版) が存在するディレクトリに移動する

2 インストーラー「grn-2.0.0-linux.bin」(Linux 版) または「grn-2.0.0-solaris.bin」(Solaris 版) を実行する

```
[root@garoon admin]# sh grn-2.0.0-linux.bin
```

3 表示された内容にしたがって、[Y] または [N] キーを押し、[Enter] キーを押す

```
この日本語が読める場合は Y を入力してください。  
Can you read the above Japanese text? (if not, type 'N')  
Y
```

4 [Space] または [Enter] キーを押して製品の試用許諾契約を確認し、同意する場合は「yes」と入力し、[Enter] キーを押す

```
以上の試用許諾条件に同意しますか？  
[yes or no]: yes
```

※ 試用許諾契約に同意しない場合、「no」と入力し、[Enter] キーを押してください。
インストーラーが終了します。

5 インストール識別子を確認し、[Enter] キーを押す

```
インストール、もしくはアンインストールするアプリケーションの識別子を入力して下さい。
```

```
新規にインストールする場合は、新たな識別子を入力して下さい。  
インストール識別子はインストール毎に異ならなければなりません。  
使用できる文字は「a-z, A-Z, _」、もしくはその後に「0-9」をつけたものになります。  
識別子の長さは 10文字以内として下さい。
```

```
バージョンアップインストール、もしくはアンインストールする場合は、既にインストール  
されているアプリケーションの識別子を入力して下さい。  
[cbgrn]:
```

インストール識別子を確認する

※ 既に「ガルーン 2」をインストールしている場合、以前と重複しない識別子を入力し、
[Enter] キーを押してください。

※ ここで入力したインストール識別子が「ガルーン 2」にアクセスする URL に使われます。

6 「ガルーン 2」の常駐プログラムとデータのインストールディレクトリを確認し、[Enter] キーを押す

常駐プログラムとデータのディレクトリを指定してください。
データサイズが大きくなるため、ディスク空き容量に注意してください。
[usr/local/cybozu]:

インストールディレクトリを確認する

- ※ インストールディレクトリを変更する場合、ディレクトリをフルパスで入力し、[Enter] キーを押してください。

7 Web サーバーの CGI 実行可能ディレクトリを確認し、[Enter] キーを押す

CGI プログラムのディレクトリを指定してください。
実際のインストール先は「(CGI ディレクトリ)/cbgrn」になります
例 :/var/www/cgi-bin/cbgrn
[var/www/cgi-bin]:

CGI 実行可能ディレクトリを確認する

- ※ CGI 実行可能ディレクトリを変更する場合、ディレクトリをフルパスで入力し、[Enter] キーを押してください。

8 Web サーバーのドキュメントルートを確認し、[Enter] キーを押す

画像ファイルなどを入れるドキュメントルートを指定してください。
実際のインストール先は「(ドキュメントルート)/cbgrn」になります。
例 :/var/www/html/cbgrn
[var/www/html]:

ドキュメントルートを確認する

- ※ ドキュメントルートを変更する場合、ディレクトリをフルパスで入力し、[Enter] キーを押してください。

9 Web サーバーの実行ユーザー名を確認し、[Enter] キーを押す

HTTP サーバーの実行ユーザー名を指定してください。
[apache]:

Web サーバーの実行ユーザーを確認する

- ※ Web サーバーの実行ユーザーを変更する場合、実行ユーザーを入力し、[Enter] キーを押してください。

- 10** 手順 5 ～ 9 で設定した内容と表示された内容に間違いがないかを確認し、正しければ「yes」と入力してから [Enter] キーを押す
インストールが開始されます。

```
Summary of install configuration

常駐プログラムのインストール先：      /usr/local/cybozu
インストール名：                        cbgrn
HTTP サーバーのユーザー名：           apache
CGI プログラムのインストール先：       /var/www/cgi-bin/cbgrn
画像ファイルのインストール先：        /var/www/html/cbgrn
データベースの使用ポート番号：        3770
スケジューリングサービス起動スクリプト： /etc/rc.d/init.d/cyss_cbgrn
アプリケーション削除スクリプト：      /var/www/cgi-bin/cbgrn/uninstall_cbgrn
データベースエンジン起動スクリプト：   /etc/rc.d/init.d/cyde_4_1
データベースエンジン削除スクリプト：   /usr/local/cybozu/mysql-4.1/uninstall_cyde_4_1

以上の設定でインストールを開始してよろしいですか？
[yes or no]: yes
```

設定内容を確認する

※ 「no」と入力し [Enter] キーを押すと、手順 6 に戻ります。

11 インストールが正常に終了したかを確認する

```
Installing Cybozu Database Engine...
サイボウズデータベースエンジンを開始しています ... done.
Installing CGI...
Installing Cybozu Scheduling Service...
Installing Web files...
Copying license files...
Installing uninstall scripts...

インストールは正常に終了しました！
以上で Garoon にウェブブラウザでアクセスできます。
もしご不明な点がありましたら、install.log をそえてお問い合わせください。
[root@garoon admin]#
```

補足

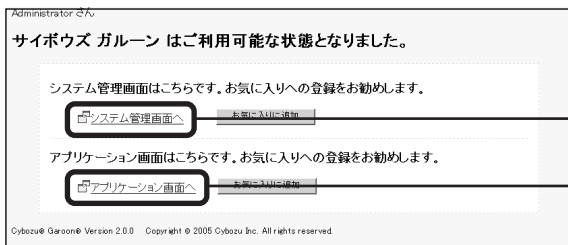
- インストールできない旨のメッセージが表示された場合は、「インストールする前の確認」(P.22) の内容を確認してください。
- インストールした「ガルーン 2」にアクセスしたとき、正常に画面が表示されない場合は、以下の設定内容を確認してください。
 - ・ CGI 実行可能ディレクトリに、CGI 実行権限が設定されていない
 - ・ ドキュメントルートのアクセス権が正しく設定されていない

インストール後の初期設定

「ガルーン 2」のインストールが終わったら、Administrator（スーパーユーザー）のパスワードを設定し、「ガルーン 2」を初期化します。その後、システム管理者とお客様情報を登録します。

4.1 「ガルーン 2」を初期化する	28
4.2 お客様情報を登録する	30
4.3 システム管理者を登録する	32

3 初期化が完了するとシステム管理画面およびアプリケーション画面へのリンク画面が表示される



「システム管理」画面を表示します。

「アプリケーション」画面を表示します。

4.1

「ガルーン」を初期化する

注意

- パスワードは厳重に管理してください。Administrator はシステム全体の管理権限を持つユーザー（スーパーユーザー）です。

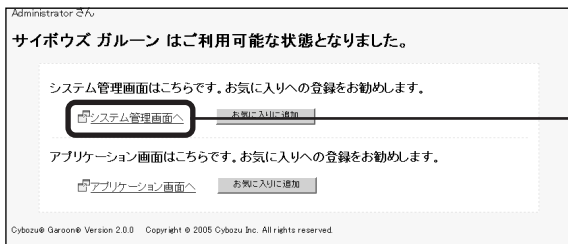
補足

- Internet Explorer を使用している場合は、手順 3 のリンク画面で [お気に入りに追加] が表示されます。お気に入りに追加する場合、このボタンをクリックしてください。

4.2 お客様情報を登録する

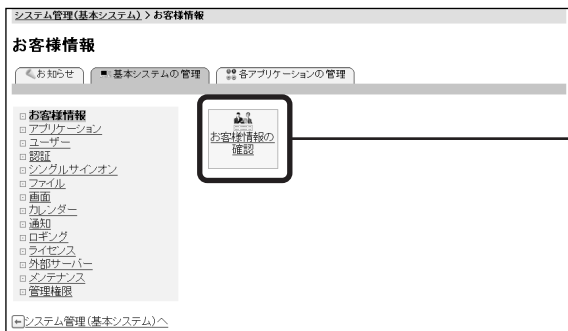
「ガルーン2」の初期化が終わったら、続いてお客様情報を登録します。

1 リンク画面でシステム管理画面へをクリックする



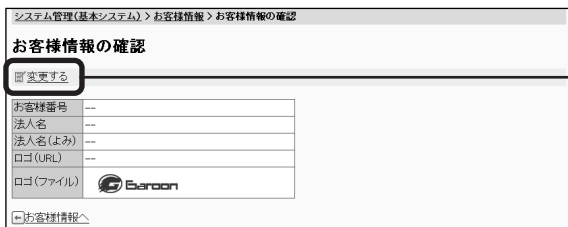
クリック

2 「システム管理」画面で ■ 基本システムの管理 → □ お客様情報の順にクリックし、 お客様情報の確認をクリックする



クリック

3 変更するをクリックする



クリック

4.2

お客様情報を登録する

4 必要な項目を入力し、**変更する** をクリックする

「*」が付いている項目は必ず入力してください。

The screenshot shows a web form titled 'お客様情報の変更' (Customer Information Change) within a navigation menu: システム管理(基本システム) > お客様情報 > お客様情報の確認 > お客様情報の変更. The form includes the following fields and buttons:

- お客様番号: --
- 法人名: ほんやうりあん
- 法人名(よみ): ほんやうりあんかい
- ロゴ(URL): [Input field]
- ロゴ(ファイル): [Input field] with a '参照...' (Reference) button.
- Buttons: **変更する** (Change), キャンセルする (Cancel), and お客様情報の確認 (Check Customer Information).

Annotations with arrows point to the form fields:

- 法人名を入力する (Enter company name) - points to the '法人名' field.
- 法人名のよみを入力する (Enter company name reading) - points to the '法人名(よみ)' field.
- Web サーバーにある画像を設定する場合は URL を入力する (If setting an image on a web server, enter the URL) - points to the 'ロゴ(URL)' field.
- 入力後、クリック (Click after input) - points to the **変更する** button.
- パソコンにある画像を設定する場合、そのファイルを選択する (If setting an image on a PC, select the file) - points to the '参照...' button.

Additional text below the screenshot reads: ※ 独自のロゴを利用する場合は、ロゴイメージのURLもしくはファイルのどちらかを指定してください。 ※ ファイルを指定すると、動作が遅くなる場合があります。

※ お客様情報の変更を中止する場合は、**キャンセルする** をクリックします。

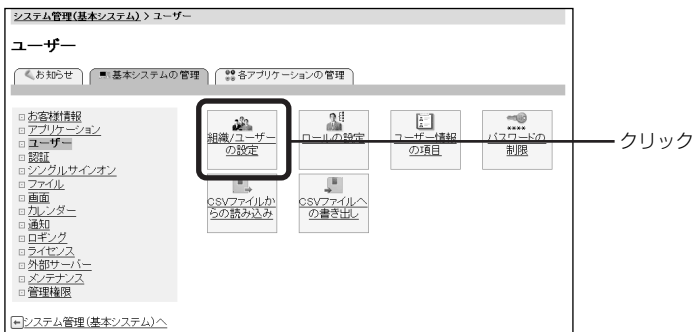
4.3 システム管理者を登録する

続いてシステム管理者を登録し、システム管理者を Administrators ロールに付与します。Administrators ロールに付与することで、登録したユーザーがシステム管理者として操作できるようになります。

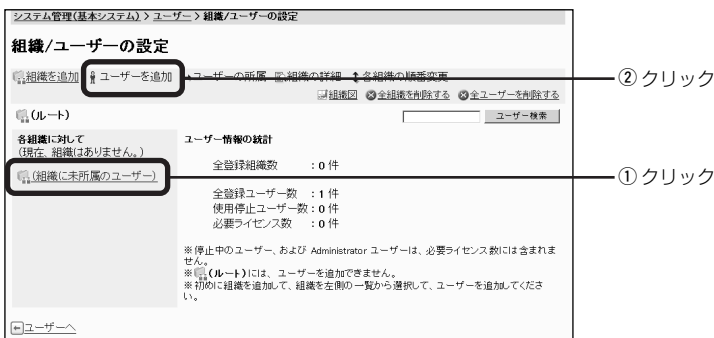
- 1 「システム管理」画面で 基本システムの管理 → ユーザーの順にクリックし、 組織／ユーザーの設定をクリックする

4.3

システム管理者を登録する



- 2 (組織に未所属のユーザー) をクリックし、 ユーザーを追加をクリックする



3 必要な項目を入力し、 **追加する** をクリックする

「*」が付いている項目は必ず入力してください。

システム管理(基本システム) > ユーザー > 組織/ユーザーの設定 > ユーザーの追加

ユーザーの追加

ユーザーの情報を入力してください。

「*」は必須項目です。必ず入力してください。

名前*	<input type="text" value="所川 はじめ"/>
ログイン名*	<input type="text" value="ikutagawa"/>
パスワード	<input type="password" value="●●●●●"/>
パスワード(確認)	<input type="password" value="●●●●●"/>
表示優先度	<input type="text"/>
使用の停止	<input type="checkbox"/> 停止する 使用を停止したユーザーは、ライセンスが必要な人数として扱われません。
よみ	<input type="text" value="所川がわ はじめ"/>
E-mail	<input type="text" value="ikutagawa@****.co.jp"/>
プセ	<input type="text" value="システム管理者"/>
役職	<input type="text"/>
連絡先	<input type="text"/>
URL	<input type="text"/>
画像	<input type="text"/> 参照

組織/ユーザーの設定

必要な項目を入力する

入力後、クリック

※ ユーザーの追加を中止する場合、 **キャンセルする** をクリックします。

4.3

システム管理者を登録する

● ユーザー情報の入力項目

項目	項目説明
名前	ユーザーの名前を入力します。
ログイン名	ユーザーのログイン名を入力します。すでに登録されているユーザーのログイン名と同じログイン名は使用できません。
パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため、同じパスワードを入力します。
表示優先度	ユーザーの一覧画面で表示する優先度を「0 (ゼロ)」以上の整数で入力します。
使用の停止	ユーザーとしてのアカウントを停止する場合、チェックを入れます。チェックを入れると、そのユーザーは「ガールン2」にアクセスできなくなります。
よみ	ユーザーのよみを入力します。
E-mail	ユーザーの E-mail アドレスを入力します。
メモ	ユーザーに関するメモを入力します。
役職	ユーザーの役職を入力します。
連絡先	ユーザーの連絡先を入力します。
URL	ユーザーまたはユーザーに関連するホームページの URL を入力します。
画像	ユーザーの写真など、ユーザーの画像ファイルを選択します。

続いて、登録したユーザーに Administrators ロールを付与します。

4 ユーザーをクリックする

システム管理(基本システム) ユーザー 組織/ユーザーの設定

組織/ユーザーの設定

組織を追加 ユーザーを追加 ユーザーの所属 組織の詳細 子組織の順番変更

組織検索 全組織を削除する 全ユーザーを削除する

(ルート) > (組織に未所属のユーザー)

未所属ユーザー (2件中1-2件表示)

先読へ | <前の20件へ | 次の20件へ>

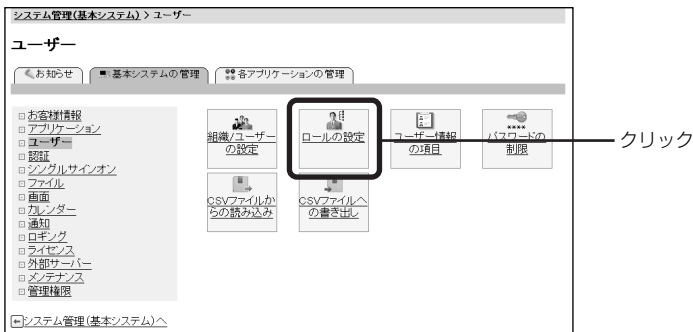
<input checked="" type="checkbox"/>	ユーザー名	ログイン名	表示優先度	使用状態
<input checked="" type="checkbox"/>	Administrator	Administrator	0	使用中
<input type="checkbox"/>	あけ川 弘のめ	akutagawa	なし	使用中

先読へ | <前の20件へ | 次の20件へ>

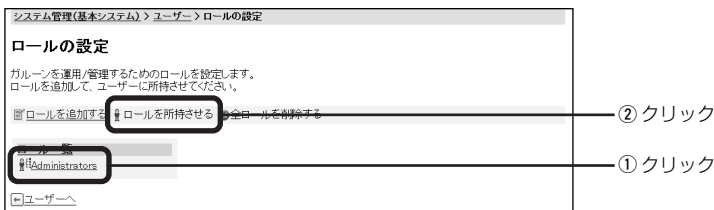
チェックした項目を 削除する

ユーザーへ

5 ロールの設定をクリックする



6 Administrators をクリックし、 ロールを所持させる をクリックする



7 (組織に未所属のユーザー) をクリックする



8 システム管理者にするユーザーを選択し、**↓追加** をクリックする

システム管理(基本システム) > ユーザー > ロールの設定 > ロールの所持

ロールの所持

ロール「Administrators」を所持させるユーザーを選択してください。

検索(ロール) > (組織)に未所属のユーザー

子組織 (現在、子組織はありません。)

未所属ユーザー一覧(2件中1-2件表示)

先ページ < 前の10件へ | 次の10件へ >

Administrator (Administrator)

Administrator (Administrator)

齊川 はじめ (shutagawa)

先ページ < 前の10件へ | 次の10件へ >

↓追加 **↑削除**

所持させる キャンセルする

ロールの設定へ

システム管理者にするユーザーを選択する

選択後、クリック

※ 付与するユーザーを解除する場合、下の欄から解除するユーザーを選択し、**↑削除** をクリックします。

9 **所持させる** をクリックする

システム管理(基本システム) > ユーザー > ロールの設定 > ロールの所持

ロールの所持

ロール「Administrators」を所持させるユーザーを選択してください。

検索(ロール) > (組織)に未所属のユーザー

子組織 (現在、子組織はありません。)

未所属ユーザー一覧(2件中1-2件表示)

先ページ < 前の10件へ | 次の10件へ >

Administrator (Administrator)

Administrator (Administrator)

齊川 はじめ (shutagawa)

先ページ < 前の10件へ | 次の10件へ >

↓追加 **↑削除**

齊川 はじめ (shutagawa)

所持させる キャンセルする

ロールの設定へ

クリック

※ ユーザーへの付与を中止する場合、**キャンセルする** をクリックします。

4.3

アンインストール

5

「ガルーン 2」をアンインストールする手順について説明します。

5.1	Windows 環境でのアンインストール	38
5.2	UNIX 環境でのアンインストール	41

5.1 Windows 環境でのアンインストール

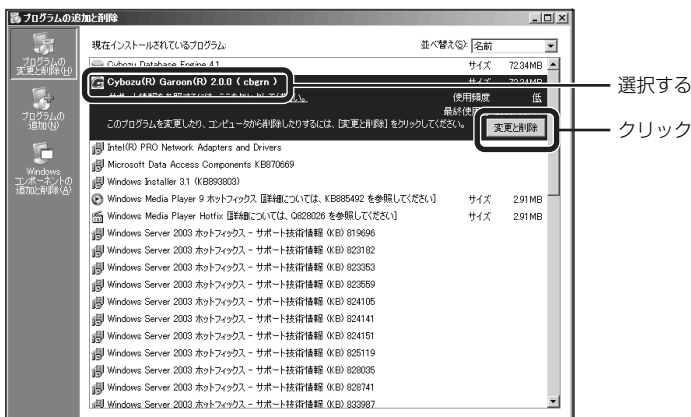
「ガルーン 2」のアンインストール方法について説明します。アンインストールは「Administrator」権限を持つユーザーで行ってください。



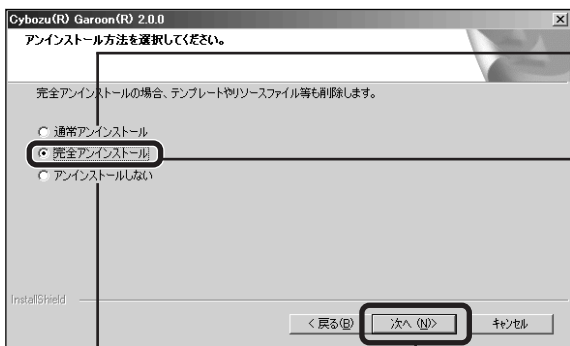
- 手順どおりアンインストールを行わなかった場合、完全にアンインストールできない場合があります。

5.1

- 1 Windows のスタートメニューから、[コントロールパネル] → [プログラムの追加と削除] を選択する
- 2 「Cybozu(R) Garoon(R) 2.0.0 (cbgrn)」を選択し、[変更と削除] をクリックする



3 「完全アンインストール」を選択し、「次へ」をクリックする



テンプレートやリソースファイルなどを残してアンインストールする場合に選択します。

テンプレートやリソースファイルなど含めて完全にアンインストールする場合に選択します。

アンインストールしない場合に選択します。

クリック

※ アンインストールを中止する場合、「キャンセル」をクリックします。

※ ひとつ前の画面に戻る場合、「戻る」をクリックします。

4 「完了」をクリックする



クリック

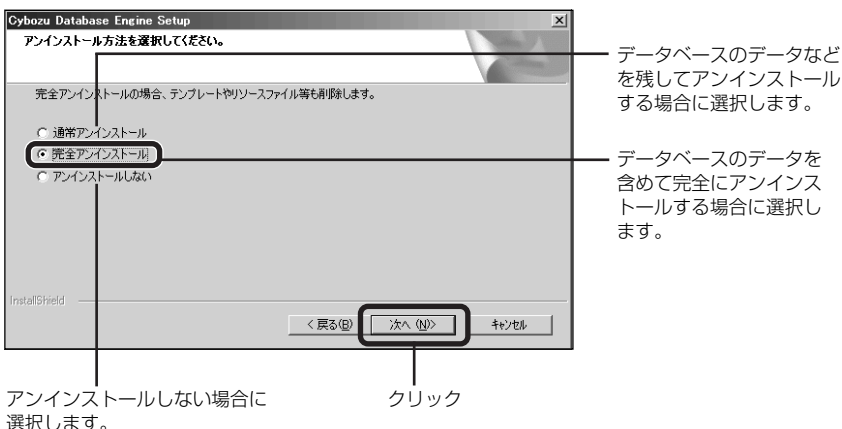
5 「Cybozu Database Engine 4.1」を選択し、[変更と削除]をクリックする



5.1

Windows環境でのアンインストール

6 「完全アンインストール」を選択し、[次へ]をクリックする



※ アンインストールを中止する場合、[キャンセル] をクリックします。

※ ひとつ前の画面に戻る場合、[戻る] をクリックします。

以上で Windows 版の完全アンインストールは完了です。

5.2 UNIX 環境でのアンインストール

UNIX 環境は、インストーラー「grn-2.0.0-linux.bin」(Linux 版) または「grn-2.0.0-solaris.bin」(Solaris 版) を使ってアンインストールします。

アンインストールは「root」ユーザーで行ってください。

**注意**

- 手順どおりアンインストールを行わなかった場合、完全にアンインストールできない場合があります。

1 インストーラー「grn-2.0.0-linux.bin」(Linux 版) または「grn-2.0.0-solaris.bin」(Solaris 版) が存在するディレクトリに移動する

2 インストーラー「grn-2.0.0-linux.bin」(Linux 版) または「grn-2.0.0-solaris.bin」(Solaris 版) を実行する

```
[root@garoon admin]# sh grn-2.0.0b2.bin
```

3 表示された内容にしたがって、[Y] または [N] キーを押し、[Enter] キーを押す

```
この日本語が読める場合は Y を入力してください。  
Can you read the above Japanese text? (if not, type 'N')  
Y
```

4 [Space] または [Enter] キーを押して製品の試用許諾契約を確認し、同意する場合は「yes」と入力し、[Enter] キーを押す

```
以上の試用許諾条件に同意しますか?  
[yes or no]: yes
```

- ※ 試用許諾契約に同意しない場合は、「no」と入力し、[Enter] キーを押してください。インストーラーが終了します。

5 アンインストールするインストール識別子を確認し、[Enter] キーを押す

以下の識別子を持つアプリケーションが既にインストールされています。

cbgrm

インストール、もしくはアンインストールするアプリケーションの識別子を入力して下さい。

新規にインストールする場合は、新たな識別子を入力して下さい。
インストール識別子はインストール毎に異ならなければなりません。
使用できる文字は「a-z, A-Z, _」、もしくはその後に「0-9」をつけたものになります。
識別子の長さは 10文字以内して下さい。

バージョンアップインストール、もしくはアンインストールする場合は、既にインストールされているアプリケーションの識別子を入力してください。

[cbgrm]:

既にインストールしているインストール識別子です。

インストール識別子を確認する

5.2

UNIX環境でのアンインストール

6 「3」と入力し、[Enter] キーを押す

アプリケーション cbgrm は既にインストールされています。

1: バージョンアップインストールする

2: 通常アンインストールする (設定ファイルなど、カスタマイズ可能なリソースを削除しません)

3: 完全アンインストールする (全てのリソースをディレクトリごと削除します)

[1|2|3]: 3

- ※ 設定ファイルなど、カスタマイズ可能なリソースを残してアンインストールする場合、「2」を入力し、[Enter] キーを押します。
- ※ 全てのリソースをディレクトリごと削除する場合、「3」を入力し、[Enter] キーを押します。
- ※ バージョンアップする場合、「1」を入力し、[Enter] をクリックします。

7 「3」と入力し、[Enter] キーを押す

データベースエンジンをアンインストールしますか？

1: アンインストールしない

2: 通常アンインストールする (設定ファイルやデータベースファイルなどのリソースを削除しません)

3: 完全アンインストールする (全てのリソースをディレクトリごと削除します)

[1|2|3]: 3

- ※ 設定ファイルやデータベースファイルなどのリソースを残してアンインストールする場合、「2」を入力し、[Enter] キーを押します。
- ※ 全てのリソースをディレクトリごと削除する場合、「3」を入力し、[Enter] キーを押します。
- ※ アンインストールしない場合、「1」を入力し、[Enter] をクリックします。

以上で UNIX 版のアンインストールは完了です。

付録：複数サーバーでの運用

6

「ガルーン 2」を複数のサーバーに分けて運用するための設定について説明します。

6.1 「ガルーン 2」システムの構成	44
6.2 単体構成でインストールする	45
6.3 データベース分離構成でインストールする	46
6.4 Web サーバー多重構成でインストールする	51

6.1 「ガルーン 2」システムの構成

「ガルーン 2」では、1 台のサーバーマシンに「Web サーバー」「アプリケーションサーバー」「データベースサーバー」の 3 種類のサーバー機能を備えています。大規模なシステムを構築する際、スケーラブルな性能向上を図るため、これらの機能を別々のサーバーマシンに分離したり、それぞれの機能を多重化したりできます。

「ガルーン 2」では、以下のような構成でシステムを構築できます。

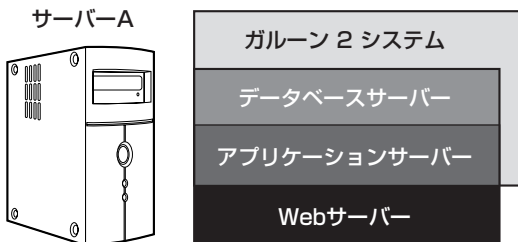
構成の種類	内容
単体構成	一般的な構成です。1 台のサーバーマシンに 3 種類のサーバー機能を備えています。 「単体構成でインストールする」→ P.45
データベースサーバー分離構成	「Web サーバー／アプリケーションサーバー」と「DB サーバー」を分離した構成です。単体構成に比べ、パフォーマンス向上が期待できます。 「DB サーバー分離構成でインストールする」→ P.46
Web サーバー多重構成	DB サーバー分離構成にした上で、「Web サーバー／アプリケーションサーバー」を複数台にする構成です。大きなパフォーマンス向上が期待できます。 「Web サーバー多重構成でインストールする」→ P.51

6.1

6.2 単体構成でインストールする

1 台のサーバーマシンで、「Web サーバー」「アプリケーションサーバー」「データベースサーバー」を備えたシステムを構築します。

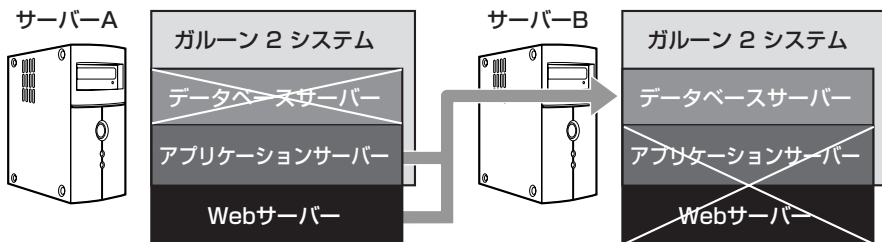
このマニュアル本編の手順でインストールした場合、単体構成になります。



6.3 データベース分離構成でインストールする

ひとつのサーバーマシンに「Web サーバー」と「アプリケーションサーバー」を構築し、もうひとつのサーバーマシンに「データベースサーバー」を構築する構成です。

2 台のサーバーマシンにそれぞれ「ガルーン 2」をインストールし、一方のサーバーマシンのデータベースを停止させ、もう一方のサーバーマシンのデータベースにアクセスするように設定します。



6.3

データベース分離構成でインストールする

6.3.1 新規で構築する

以下の手順でデータベースサーバーを分離します。

ここでは、サーバーマシン A で「Web サーバー／アプリケーションサーバー」、サーバーマシン B で「データベースサーバー」を動作させるものとします。

運用中のシステムを分離する場合、「運用中のシステムを分離する」(P.48)を参照してください。

1 サーバーマシン A とサーバーマシン B にそれぞれ「ガルーン 2」をインストールする

両サーバーマシンのインストール識別子を同じにすると、設定が簡単になります。

例) cbgrn

「Windows 環境へのインストール」→ P.13 / 「UNIX 環境へのインストール」→ P.21

2 サーバーマシン A のデータベースサーバー (cyde4_1) を停止する

サービスを停止し、起動時にサービスが起動しないように設定します。

3 サーバーマシン B の Web サーバーを停止する

サービスを停止し、起動時にサービスが起動しないように設定します。

4 サーバマシン B のデータベース設定を確認する

規定のパスにインストールした場合、my.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : C:\Program Files\Cybozu\mysql-4.1\etc\my.ini
- ・ UNIX 環境 : /usr/local/cybozu/mysql-4.1/etc/my.ini

```
[mysqld]
port = 3770
```

ポート番号を確認する
(インストール時に表示
されるポート番号と同
じです。)

5 サーバマシン A のデータベース接続先の設定を変更する

サーバマシン A の lwc.ini をテキストエディタなどで開き、接続先の設定をサーバマシン B に変更します。

規定のパスにインストールした場合、lwc.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : C:\inetpub\scripts\cbgrn\lwc.ini
- ・ UNIX 環境 : /var/www/cgi-bin/cbgrn/lwc.ini

●変更前

```
[dbconn_audit]
.
.
prop_host = val:localhost
prop_dbname = val:cbgrn
.
.
[dbconn]
.
.
prop_host = val:localhost
prop_dbname = val:cbgrn
.
.
.
```

接続先ホストの設定

接続先データベースの設定

●変更後

```
[dbconn_audit]
.
.
prop_host = val:server_b:3770
prop_dbname = val:cbgrn
.
.
[dbconn]
.
.
prop_host = val:server_b:3770
prop_dbname = val:cbgrn
.
.
.
```

「(ホスト名またはIP アドレス) : (ポート番号)」の形式でサーバマシン B の情報を指定する

サーバマシン B のインストール識別子を指定する

※ 「prop_dbname」の設定は、サーバマシン A とサーバマシン B でインストール識別子が同じであれば、変更する必要はありません。

6 サーバマシン B のデータベースサーバ (cyde4_1) を再起動する

7 サーバマシン A の Web サーバを再起動する

8 「ガルーン 2」にアクセスし、初期化を行う

Web サーバーが起動しているサーバー A にアクセスします。

「インストール後の初期設定」→ P.27

6.3.2 運用中のシステムを分離する

運用中のサーバーマシンには既にデータが蓄積されていますので、データベースサーバーとして利用します。新規に用意するサーバーマシンを「Web サーバー／アプリケーションサーバー」として利用します。

ここでは、新規に用意するサーバーマシンをサーバーマシン A、既に運用中のサーバーマシンをサーバーマシン B として説明します。

新規でサーバーマシンを構築する場合、「新規で構築する」(P.46)を参照してください。

注意

- サーバーマシン A、サーバーマシン B とも、「ガルーン 2」を同一ディレクトリ位置にインストールすることを推奨します。例えば、サーバーマシン A は C ドライブに、サーバーマシン B は D ドライブにインストールした場合、分離手順が複雑になります。

1 サーバーマシン A に「ガルーン 2」をインストールする

インストール識別子をサーバーマシン B と同じにすると、設定が簡単になります。

例) cbgrn

「Windows 環境へのインストール」→ P.13 / 「UNIX 環境へのインストール」→ P.21

2 サーバーマシン A のデータベースサーバー (cyde4_1) を停止する

サービスを停止し、起動時にサービスが起動しないように設定します。

3 サーバーマシン B の Web サーバーを停止する

サービスを停止し、起動時にサービスが起動しないように設定します。

4 サーバーマシン B のデータベース設定を確認する

サーバーマシン B の my.ini をテキストエディタなどで開き、mysqld のポート番号 (port) を確認します。

規定のパスにインストールした場合、my.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : C:\Program Files\Cybozu\mysql-4.1\etc\my.ini
- ・ UNIX 環境 : /usr/local/Cybozu/mysql-4.1/etc/my.ini

```
[mysqld]
port = 3770
```

ポート番号を確認する (インストール時に表示されるポート番号と同じです。)

6.3

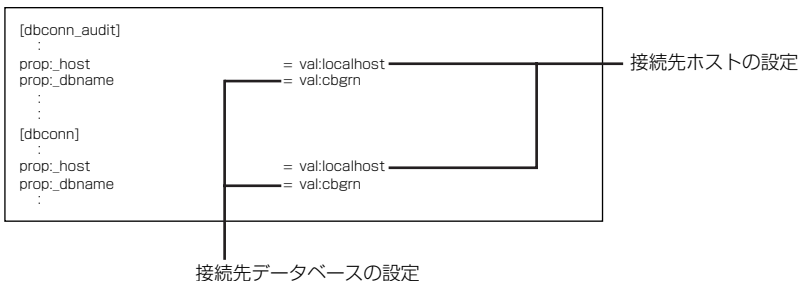
5 サーバマシン A のデータベース接続先の設定を変更する

サーバマシン A の lwc.ini をテキストエディタなどで開き、接続先の設定をサーバマシン B に変更します。

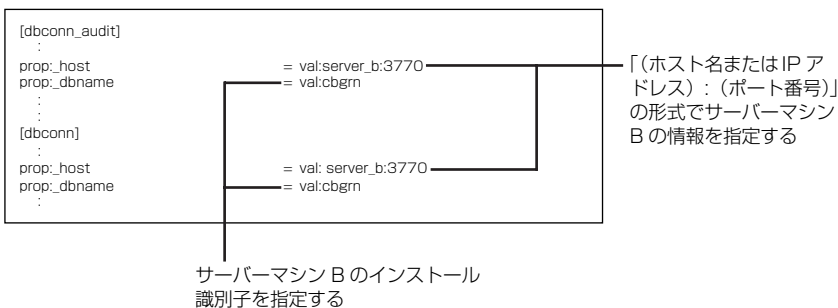
規定のパスにインストールした場合、lwc.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : C:\inetpub\scripts\cbgrn\lwc.ini
- ・ UNIX 環境 : /var/www/cgi-bin/cbgrn/lwc.ini

●変更前



●変更後



※ 「prop:_dbname」の設定は、サーバマシン A とサーバマシン B でインストール識別子が同じであれば、変更する必要はありません。

6 サーバマシン B の common.ini をサーバマシン A にコピーする

規定のパスにインストールした場合、common.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境：C:\inetpub\scripts\cbgrn\common.ini
- ・ UNIX 環境：/var/www/cgi-bin/cbgrn/common.ini

7 サーバマシン A の common.ini を変更する

コピーした common.ini を開き、以下の項目を確認します。

IIS6.0 の場合の例

<pre>[Global] : web_root = "C:/inetpub/wwwroot/cbgrn" initialized = "1" [Session] : save_path = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/sessiondata/cbgrn" : : [Smarty] : compile_dir = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/smarty/cbgrn/compiled" cache_dir = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/smarty/cbgrn/compiled" : : [Files] dir = "/server_b/share"</pre>	<p>ドキュメントルートが正しいパスであることを確認する</p> <p>セッションデータの保存先が正しいパスであることを確認する</p> <p>正しいパスであることを確認する</p> <p>添付ファイルの保存領域をサーバマシン B の保存領域に変更する 「Web サーバ多重構成でインストールする」の手順2 → P.52</p>
---	--

※ Windows の場合、「¥」を「/」に置き換えて指定します。

8 サーバマシン B のデータベースサーバ (cyde4_1) を再起動する

9 サーバマシン A の Web サーバを再起動する

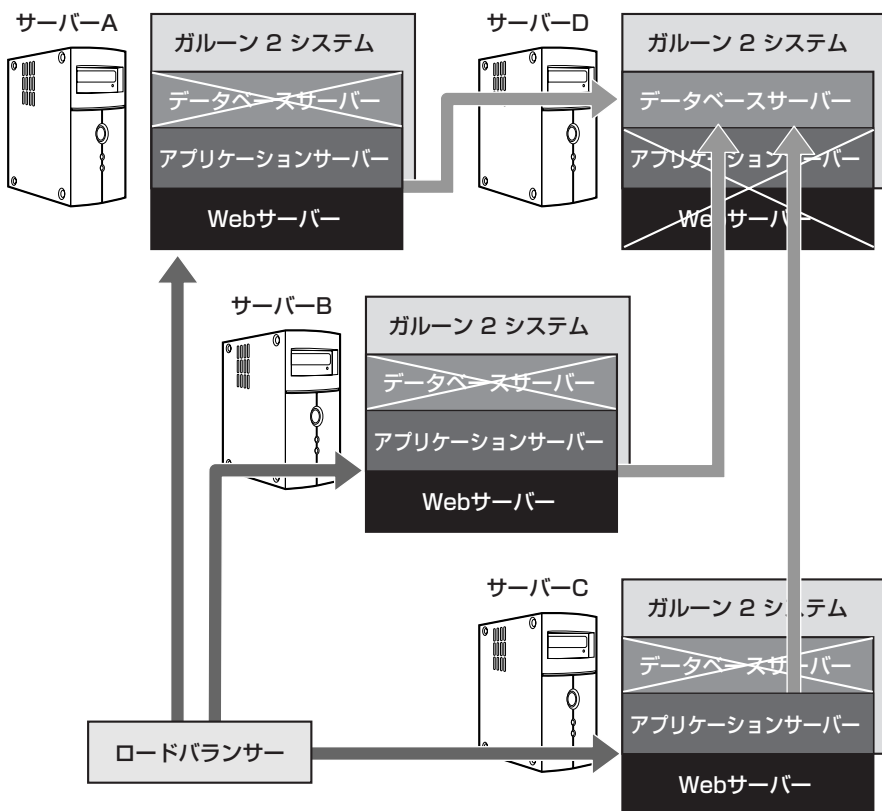
10 「ガールーン 2」 にアクセスする

システムの分離が正常であれば、ログイン画面が表示されます。

6.4 Web サーバー多重構成でインストールする

「Web サーバー」と「アプリケーションサーバー」だけで構築したサーバーマシンを複数台構築して、単体の「データベースサーバー」にアクセスする構成です。

クライアントからのアクセスを各「Web サーバー／アプリケーションサーバー」にロードバランサーや DNS ラウンドロビンを利用して振り分けます。



6.4

Webサーバー多重構成でインストールする

「Galun 2」では「Web サーバー／アプリケーションサーバー」の負荷がボトルネックになるため、これらのサーバーマシンを多重化して負荷を分散させることにより、パフォーマンスが向上します。

ここでは、「Web サーバー／アプリケーションサーバー」をサーバーマシン A / B / C、「データベースサーバー」をサーバーマシン Dとして説明します。

1 サーバマシン A / B / C を「Web サーバー／アプリケーションサーバー」、サーバマシン D を「データベースサーバー」に構築する

「データベース分離構成でインストールする」→ P.46

2 サーバマシン A / B / C の添付ファイル保存領域を変更する

添付ファイルの保存領域をひとつの共有ネットワークファイルシステムに変更します。サーバマシン A / B / C それぞれの common.ini をテキストエディタなどで開き、添付ファイルの保存領域をリモートファイルパス（Windows 環境）またはマウントされた NFS パス（UNIX 環境）に変更します。

規定のパスにインストールした場合、common.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境：C:\inetpub\scripts\cbgrn\common.ini
- ・ UNIX 環境：/var/www/cgi-bin/cbgrn/common.ini

●変更前（Windows 環境の場合の例）

```
[Files]
dir = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/files/cbgrn"
```

添付ファイル保存領域のパス

●変更後（Windows 環境の場合の例：¥¥Fileserver¥cbgrn に保存する場合）

```
[Files]
dir = "/Fileserver/cbgrn"
```

添付ファイルの保存領域のパスを指定する

※ Windows 環境の場合、「¥」を「/」に置き換えて指定します。

3 セッションの同一性保証の設定を行う

「ガールーン 2」の初期状態では、ローカルのファイルシステムを使用してセッションデータを管理しています。そのため、HTTP リクエストをラウンドビンで振り分ける（HTTP リクエストが多重化された Web サーバーのどれに振り分けられてもよいようにする）には、セッションデータの保存先を共有化したデータベースサーバー（サーバマシン D）にするか、L7 スイッチを搭載したロードバランサーを使用するか、どちらかを選択します。

セッションデータをサーバマシン D に保存して共有する場合は、「セッションデータをデータベースサーバーで管理する」（P.53）を参照してください。

L7 スイッチを搭載したロードバランサーを使用する場合は、「ロードバランサーの L7 スイッチを使用する」（P.54）を参照してください。

4 サーバマシン A / B / C それぞれの Web サーバーを再起動する

■セッションデータをデータベースサーバーで管理する

セッションデータの管理をデータベースサーバーに変更します。

1 サーバマシン A / B / C にそれぞれ固有な ID 文字列を設定する

固有な ID 文字列を設定することで、セッション ID の先頭にサーバマシン固有の文字列が埋め込まれるようになります。そのため、複数の Web サーバーで重複するセッション ID が作成されるのを防止できます。

サーバマシン A / B / C それぞれの `common.ini` をテキストエディタなどで開き、`server_id` プロパティにそれぞれ固有の ID 文字列を指定します。

規定のパスにインストールした場合、`common.ini` は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : `C:\inetpub\scripts\cbgrn\common.ini`
- ・ UNIX 環境 : `/var/www/cgi-bin/cbgrn/common.ini`

●変更前

```
[Session]
:
save_path = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/sessiondata/cbgrn"
```

[Session] のいちばん最後に追加する

●変更後（データベースサーバーの ID 文字列を「server_d」とした場合）

```
[Session]
:
save_path = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/sessiondata/cbgrn"
server_id = "server_d"
```

サーバーごとに固有な ID 文字列を設定する

2 サーバマシン A / B / C のセッションデータ保存先をデータベースにする

セッションデータ保存先をファイルシステムからデータベースに切り替えます。これにより、ひとつの共有しているデータベースサーバーに複数の Web サーバーで生成されたセッションデータが格納されます。

サーバマシン A / B / C それぞれの `php.ini` をテキストエディタなどで開き、`session.save_handler` プロパティを「files」から「user」に変更します。

規定のパスにインストールした場合、`php.ini` は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : `C:\inetpub\scripts\cbgrn\php.ini`
- ・ UNIX 環境 : `/var/www/cgi-bin/cbgrn/php.ini`

●変更前

```
[Session]
:
session.save_handler = files
```

セッションデータの保存先の設定

●変更後

```
[Session]
:
session.save_handler = user
```

「user」に変更する

■ロードバランサーのL7スイッチを使用する

セッションデータの管理をデータベースサーバーに変更します。

1 サーバーマシン A / B / C にそれぞれ固有な ID 文字列を設定する

固有な ID 文字列を設定することで、セッション ID の先頭にサーバーマシン固有の文字列が埋め込まれるようになります。そのため、複数の Web サーバーで重複するセッション ID が作成されるのを防止できます。

サーバーマシン A / B / C それぞれの common.ini をテキストエディタなどで開き、server_id プロパティにそれぞれ固有の ID 文字列を指定します。

規定のパスにインストールした場合、common.ini は次のパスにあります。

- ・ Windows 環境 : C:\inetpub\scripts\cbgrn\common.ini
- ・ UNIX 環境 : /var/www/cgi-bin/cbgrn/common.ini

●変更前

```
[Session]
:
save_path = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/sessiondata/cbgrn"
```

[Session] のいちばん最後に追加する

●変更後 (データベースサーバーの ID 文字列を「server_d」とした場合)

```
[Session]
:
save_path = "C:/Program Files/Cybozu/mysql-4.1/sessiondata/cbgrn"
server_id = "server_d"
```

サーバーごとに固有な ID 文字列を設定する

2 ロードバランサーの設定を行う

- ・ パソコンの Web ブラウザーで「ガルーン 2」にアクセスした場合、セッション ID は HTTP Cookie を使ってリクエストに付加されます。CBSESSION クッキー変数の値に含まれる、server_id を使用して、その server_id を持つサーバーマシンに振り分けるように設定してください。
- ・ 携帯電話の Web ブラウザーで「ガルーン 2」にアクセスした場合、セッション ID は リクエスト URL を使ってリクエストに付加されます。URL パス中に含まれている server_id を使用して、その server_id を持つサーバーマシンに振り分けるように設定してください。

索引

英数字

Administrators ロール.....	32
Administratorのパスワード.....	11、28
Apache.....	22
CGI実行可能ディレクトリ	8、9、11、14、17、22、24
IIS.....	14
SELinux について.....	22
Web サーバー多重構成.....	44、51

あ

アクセスする.....	28
アンインストール.....	37
UNIX 環境.....	41
Windows 環境.....	38
アンインストールしない.....	39、42
インストーラー.....	7、15、23
名称.....	7
インストール.....	13、21
UNIX 環境.....	21、23
Windows 環境.....	13、15
確認.....	14、22
インストール識別子..	11、16、23、46、48
インストールディレクトリ	
CGI 実行可能ディレクトリ	8、9、11、17、24
アプリケーション.....	8、16
起動スクリプトディレクトリ.....	9
常駐プログラムとデータ.....	9、24
ドキュメントルート	8、9、11、17、24
お客様情報.....	11
お客様情報を登録する.....	30
か	
完全アンインストール.....	39、40、42
記号.....	2

さ

システム管理画面.....	30、32
システム管理者を登録する.....	32
システム管理者情報.....	11
システムの初期化画面.....	28
実行ユーザー名.....	24
準備しておく情報.....	11
試用許諾契約.....	15、23
商標.....	3
初期化する.....	28
初期設定.....	27
Administrator のパスワード.....	11、28
お客様情報.....	30
製品名称.....	3
製品略称.....	3

た

対象読者.....	2
単体構成.....	44、45
通常アンインストール.....	39、40、42
データベース分離構成.....	46
データベースサーバー分離構成.....	44
動作環境.....	6
対応 OS.....	6
対応 Web サーバー.....	6
対応 Web ブラウザー.....	6
導入の流れ.....	10
ドキュメントルート	8、9、11、14、17、22、24

は

表記.....	2
ファイル構成.....	8
Cybozu データベースエンジン.....	8、9
Linux 版.....	9
Solaris 版.....	9

Windows 版	8
画像ファイル	8、9
起動スクリプトファイル	9
本体	8、9

ま

マニュアル作成環境	2
-----------------	---

や

ユーザー情報の入力項目	34
-------------------	----

ら

リンク画面	29、30
ロードバランサー	52、54